

令和2年度 西多摩郡小教研理科部 研究概要

令和2年6月17日
日の出町立本宿小学校
理科部長 萩原 悠輔

1 平成30年度、令和元年度の研究のまとめ

2年間の研究のまとめとして以下に成果と課題を示す。

〈成果〉

- ・第3学年から第6学年の研究授業を行うことで、各学年で育成を目指す問題解決の力について、どのように授業を改善するのか検討することができた。

例：問題を見いだすためには、その単元で扱う自然事象に対して繰り返し活動し、十分体験させることが有効である。

妥当な考えをつくりだすためには、個人→班→全体というように学習形態を工夫することが有効である。

〈課題〉

- ・児童が主体的に問題を解決する授業を進めることに課題が残る。問題を見いだした後、どのように問題意識を継続させることを考えていく必要がある。
- ・問題を見いだす力に関しては第3学年だけでなく、どの学年でも意識して授業を組み立てる必要がある。
- ・児童のかかわりが主体的な問題解決に活かされていたのか、課題が残る。どのようなかかわり方をすれば、主体的な問題解決につながるのか考える必要がある。

2 令和2年度研究主題について

理科部

児童が主体的に問題を解決する理科学習

研究主題設定の理由

理科部では平成30年度、令和元年度の2年間で「児童のかかわりを生かし、主体的に問題を解決する理科学習 ～問題解決の力を育成するための指導の工夫～」という主題及び副主題で研究を進めてきた。この2年間の研究を通して、問題解決の力の育成についてどのように授業を改善すればよいのかは検討し、実践することができた。しかし、児童が主体的に問題を解決する授業を進めることには課題が残った。児童のどのような姿が主体的に問題を解決している姿なのか、より深めていく必要があると考えた。そこで今年度の研究主題を「児童が主体的に問題を解決する理科学習」とした。

「主体的に問題解決する」児童の姿について学習指導要領には以下のように示されている。

- ・意欲的に自然の事物・現象に関わろうとする態度
- ・粘り強く問題を解決しようとする態度
- ・他者と関わりながら問題を解決しようとする態度
- ・学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする態度

上記の姿が理科の授業を行う際に見ることができるようになることが本研究の目標である。

この研究主題に迫るために自然事象との出会いの場面での教材の工夫が重要になる。そのため、単元の導入時にどのような自然事象を提示するのか、そしてどのような体験させるのか考える必要がある。

今年度は上記の自然事象との出会いの場面での教材の工夫に焦点を絞り、研究を進めることにする。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、研究授業は実施せず、教材開発（地域教材の開発を含む）を中心に研究を進める。

3 年間の活動計画

月日	内容
6月17日	研究主題の決定、年間計画の立案
10月14日	地域教材 現地研修会 「秋川流域の地質について」 講師：秋川流域ジオの会
1月20日	部員による教材発表会

※上記内容と並行して、学習評価についてレポートとしてまとめる。